

# 学校におけるいじめの実態の国際比較

## —教育支出と教員の負担—

東北大学大学院文学研究科  
人間科学専攻  
行動科学専攻分野 M1  
眞田 英毅  
teeeruki@outlook.jp

### 研究の背景と目的

#### ● いじめに関する先行研究

##### ○ 個人特性

- いじめの多くは嫉妬や不満などから生じる (阪井 1989; 正高 2007; 土居・渡部 2008)
- 人気者の子どもはいじめられにくい (Pellegrini et al. 1999)
- 加害者はいじめの理由として「イライラしていた」「嫉妬」「なんとなく」を理由にあげる (金綱 2015)

##### ○ 集団特性

- 学級内での規範意識や生徒の結束力が高いといじめは起こりにくい (水田・岡田・尾島 2016; 大西 2007; Saarento et al. 2013)

#### ● 先行研究の限界と本研究の目的

- 学校ごとに規範意識は異なり、また学校の特徴がいじめの原因になりうるのではないか (例えば教員1人当たりの生徒数が多ければ教員の負担は大きく、生徒1人1人に気を配れない可能性がある)
- また、国や地域の教育支出が多ければ、多くの教員やカウンセラーを配置でき、行き届いた教育ができるのではないだろうか
- ⇒ 国や地域による**教育支出**、**学校ごとの教育環境**を踏まえて、**どのような状況でいじめが起きやすいのか**、**どのような子どもがいじめられやすいのかを分析**

### データ

#### ● データ

- PISA**データ(2015)  
OECDが3年ごとに行う学習到達度調査(第6サイクル)  
科学的リテラシー・読解力などの3分野について調査  
OECD加盟国を中心に72の国や地域の15歳の子どもを対象

#### ● 分析方法

- マルチレベル分析**
- 永吉(2016)を参考にモデルや変数を作成  
社会経済的地位 (SES) は中心化したものを使用
- ランダム効果は個人のSESと切片に**

### 変数

#### ● 従属変数

##### ・ いじめられた経験の因子得点

- 「仲間外れにされた」「からかわれた」「脅された」「ものを取られたり壊されたりした」「叩かれたり押されたりした」「意地の悪い噂を流された」(全くない、年に数回、月に数回、週に数回の4件法)
- の6項目を因子分析で因子得点を算出

#### ● 独立変数 (詳しい変数の作り方は補足資料に記載)

- 個人SES (社会経済的地位) (中心化)
- 親は学校での状況をよく気にかけて相談にのってくれるか
- 今日朝食を食べて来たか (ダミー変数)
- 習熟度別クラスの有無 (ダミー変数) (学校レベル)
- 国語の授業の生徒数 (クラスサイズ) (学校レベル)
- 学校SES (社会経済的地位) (中心化) (学校レベル)
- GDPに対する**教育支出割合** (国レベル)

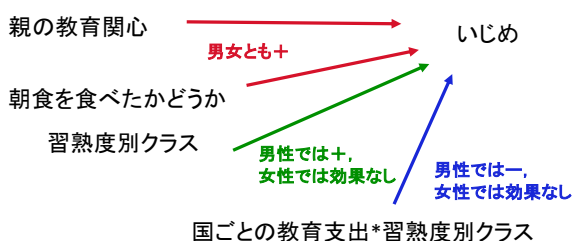
### 分析結果 男性

	モデル1		モデル2	
	B	S.E.	B	S.E.
固定効果				
切片	-1.14 ***	0.18	-1.28 ***	0.23
個人の社会経済的地位 (SES)	0.00	0.02	0.00	0.02
親の教育関心	0.06 ***	0.00	0.06 ***	0.00
当日朝食を食べたか	0.08 ***	0.02	0.08 ***	0.02
集団レベル1 (学校) (n=1819)				
習熟度別クラスダミー	0.01	0.02	0.22 †	0.12
国語の授業の生徒数	0.01 †	0.01	0.02	0.04
学校ごとの社会経済的地位(SES)	0.00	0.01	0.00	0.01
個人SES*学校SES	0.00	0.00	0.00	0.00
習熟度別クラス*生徒数			0.00	0.01
集団レベル2 (国・地域) (n=36)				
国ごとの教育支出			0.02	0.04
教育支出*習熟度別クラス			-0.04 †	0.02
教育支出*生徒数			0.00	0.01
deviance	54760.00		54756.10	

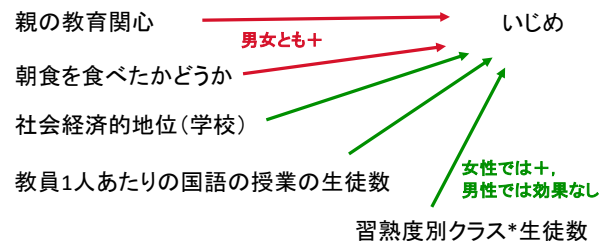
### 分析結果 女性

	モデル1		モデル2	
	B	S.E.	B	S.E.
固定効果				
切片	-1.30 ***	0.18	-1.53 ***	0.19
個人の社会経済的地位 (SES)	-0.01	0.02	-0.01	0.02
親の教育関心	0.06 ***	0.00	0.06 ***	0.00
当日朝食を食べたか	0.11 ***	0.02	0.08 ***	0.02
集団レベル1 (学校) (n=1819)				
習熟度別クラスダミー	0.00	0.02	0.06	0.09
国語の授業の生徒数	0.02 ***	0.01	0.07 *	0.03
学校ごとの社会経済的地位(SES)	0.02 ***	0.01	0.02 ***	0.01
個人SES*学校SES	0.00	0.00	0.00	0.00
習熟度別クラス*生徒数			0.02 *	0.01
集団レベル2 (国・地域) (n=36)				
国ごとの教育支出			0.05	0.04
教育支出*習熟度別クラス			-0.03	0.02
教育支出*生徒数			-0.01	0.01
deviance	49934.90		49924.40	

### 結果 男性



### 結果 女性



### まとめと考察

#### ● まとめ

- 男女ともに、親の教育関心が高いほど、朝食を食べてきた子どもほどいじめられやすい
- 男性では、**習熟度別クラス**はいじめを起きやすくするが、**国が教育投資を増やせばその効果は弱まる**  
→ 教員の質・量の確保やカウンセラーの配置などは重要
- 女性では、**学校の社会経済的地位の平均が高いほど、生徒数が多いほど**、いじめは起こりやすい。  
→ 女性は高い社会経済的地位の集団に属していても、その集団の中でさらに差異化する

#### ● 考察

- 授業における生徒数が増えれば教員は個々に目を向けづらく、いじめは起きやすくなる  
→ 少人数教育などは効果的である一方、**習熟度別クラスでは成績の格差が目に見えてあらわれてしまうため、いじめが起きやすくなっているのかもしれない**
- 教育支出が増えるといじめが起きにくいとは一概にはいえない  
→ ただし、教育支出が多ければ習熟度別クラスのいじめの起こりやすさは改善される  
→ **少ない教員で習熟度別クラスを実施すると教員の負担が増す**